

翻訳者68人が選んだ!

はじめての海外文学 vol.1

大人向け

①



その犬の歩むところ

ボストン・テラン著 / 田口俊樹訳

文春文庫 820円+税

ここに一匹の犬がいる。名前はキヴ。運命によって、彼は人々の手から手へと移される。出会う人々の愛、憎しみ、やさしさ、悲運が彼を翻弄する。この物語には、暗くて、無残で、激しいアメリカがある。そして、まぶしく、慈愛に満ちた、やさしいアメリカもある。光と影、その表裏一体の姿。光が影を生み、影が光を補完する。犬は光で、人間は影なのかもしれない。それが本当かどうか、あなたもキヴと旅をしてみてください。

犬 / ロードノヴェル
青木悦子

夜な夜な天使は舞い降りる

バヴェル・ブリッチ著 / 阿部賢一訳

東宣出版 1900円+税

人間を見守る守護天使にも、苦労はある。歴史的瞬間に立ち会ったり、過労で疲れたり、はてには、サッカーのゴールに手を貸したり……。そういうかれらは、毎晩、ブラハの教会に集まって（ワインを飲みながら）話をしているという。人間味あふれる天使が語る、どこか不思議な 17 篇の物語。

コメディ / ファンタジー / 天使
阿部賢一

星空 The Starry Starry Night

ジミー・リャオ著 / 天野健太郎訳

トゥーヴァージンズ 2000円+税

「星空」はどこからでも見えます。寒いビル街からも、蒸しつく南の島からも。でも、その存在に気づいている人は意外にいません。まして今、同時にそれを見上げている人は……。台湾という近くで遠い場所で、ひとりの絵本描きさんが、ある少女（と少年）の「星空」を描きました。いっしょに見てくれる仲間が日本でも見つかりますように……。

青春 / 絵本
天野健太郎

おやすみ、リリー

ステイーヴン・ローリー著 / 越前敏弥訳

ハーバーコリンズ・ジャパン 1600円+税

刊行当時、わたしが訳出中に泣いたのは「レーン最後の事件」以来だとか、「感動の力作!」っぽい部分を強調しましたが、それだけの作品ではありません。犬を静かに看取る話にはちがいないものの、作者と犬とタコの奇妙な三角関係には笑える部分も多く、マジックリアリズムを駆使した成功例で、ゲイの中年男のさわやかな成長物語でもあります。この機会にぜひ!

ファンタジー / マジックリアリズム / 犬 / LGBT / タコ
越前敏弥

ハロー、アメリカ

J・G・バラード著 / 南山宏訳 創元SF文庫 980円+税

「我々はやがてサイコパスに支配されるだろう」と、著者のバラードはサイバーパンクの騎手ウィリアム・ギブスンに告げた。トランプ政権の誕生にも通じる未来像が、本書ではシャロン・テート暗殺事件の首謀者チャールズ・マンソンが大統領に就任する辛辣なヴィジョンとして予見されている。本書を読まずに現在は語れない。

SF / 政治 / 歴史
岡和田晃

ガルヴェイアスの犬

ジョゼ・ルイス・ベシヨット著 / 木下真穂訳

新潮社 1900円+税

ポルトガルの小さな共同体で繰り広げられる忘れがたいいくつもの物語は、そこに暮らす者たち（犬も含む）に取り憑く硫黄のにおいよりももっと強く、読む者の心にしみ込んでくる。文学の世界に避けて通れない場所がまたひとつ加わった——ガルヴェイアス。

小野正嗣

バット・ビューティフル

ジェフ・ダイヤー著 / 村上春樹訳 新潮社 1900円+税
デューク・エリントン、セロニアス・モンク、レスター・ヤングなど伝説的なジャズマンをひとりひとり、ベースとアイロニーのきいた短編小説に仕上げてしまった。ジャズ嫌い、村上春樹嫌いの読者でも、短編小説好きならききと感動するはず。訳者いわく、「とにかく針が振り切れるくらいとことん楽しめるテキストだった」

音楽 / ジャズ / 短編集
金原瑞人

日曜の午後はミステリ作家とお茶を

ロバート・ロプレスティ著 / 高山真由美訳

創元推理文庫 1020円+税

ベテランミステリ作家レオポルト・ロングシャンクス、通称シャンクス。彼が謎や事件に遭遇すると、捜査は警察におまかせと言いつつ、つい推理をしてしまうのは職業病? 寝るまえやちょっと時間ができたときに一編ずつ読むのにぴったりな、ユーモアミステリの連作短編集。軽妙洒脱な味をお楽しみください。

ミステリ / ユーモア / コージー
上條ひろみ

誰もいないホテルで

ペーター・シュタム著 / 松永美穂訳 新潮社 1700円+税
女がたった一人で切り盛りする山奥の静かなホテル。でも、どうも何かがおかしいよ……? 一つ物語を読むごとに、人間の認識の危うさ、怪しさがどんどん浮き彫りになり、背中でスーッとしてきます。

岸本佐知子



観光

ラッタウット・ラブチャルーンサップ著 / 古屋美登里訳

ハヤカワepi文庫 800円+税

タイ系アメリカ人作家 25 歳でのデビュー作。観光立国タイにやってくる外国人旅行者に向けた冷静かつ皮肉なまなざし、光を失いつつある母へのしみじみとした情愛など、どこかにつかしい佳作ぞろい。海外文学に手が伸びにくい原因のひとつに、物語の舞台への土地勘のなさがあるかもしれない。だが、この作品にその心配は無用。

亀井よし子

トレバー・ノア 生まれたことが犯罪!?

トレバー・ノア著 / 齋藤慎子訳 英治出版 1800円+税

アパルトヘイト体制下の南アフリカで、1984年にスイス系白人の父、コーサ系黒人の母のあいだに生まれたトレバー・ノアは、生まれること自体が犯罪の証だった。当時は異人種間の結婚はおろか性交も法律違反とされていたからだ。抜群の批判精神とキレのいい話術でめきめきと南ア放送界で頭角をあらわしたノアは、鋭いツツコミと政治批判で笑わせ、いまやアメリカの人気番組「ザ・デイリー・ショー」の司会者だ。

くぼたのぞみ

ルイズ・ブルジョワ 糸とクモの彫刻家

エイミー・ノヴスキー著 / イザベル・アルスノー絵 / 河野万里子訳 西村書店 1800円+税

六本木ヒルズにある巨大なクモの彫刻、知っていますか。作者はあのクモを創ることで、少女時代の心の傷を乗り越え、女性としての自分自身も解放していった——本作を訳して初めて私はそれを知り、胸を打たれました。作者の名は、ルイズ・ブルジョワ。その心の軌跡を、イザベル・アルスノーの絵とともに、ぜひ。

伝記 / 現代美術 / フェミニズム
河野万里子

恥辱

J.M.クツウェー著 / 鴻巣友季子訳

ハヤカワepi文庫 800円+税

現代のマンガやドラマに見られる「萌え」の源泉がここに。一気読みお約束します。50代になっても女子学生への愛着を抑えられない大学教授。ある日、この現代文学教授は「俺の女」だと思っていた女子からのセクハラ告発を受け、世をすね、どこまでも落ちていきます。今こそ読みたいたいノーベル文学賞作家クツウェーの代表作。

鴻巣友季子

マッドジャーマンズ ドイツ移民物語

ビルギット・ヴァイエ著／山口脩紀訳 花伝社 1800円+税
ウガンダとケニアで過ごした子供時代、唯一の白人として「区別」された経験を持つドイツ人の著者の描く、モザンビークからかつての東独へやってきた移民たちのこの物語は、シンボリックな絵とときに詩のような言葉で読者の心に食いこむ。母国でも居住国でも自分をよそ者と感じ、「文化のはざまでゆらめく」人たちの声が聞こえてくる。

グラフィックノベル
小竹由美子

荒野のホームズ、西へ行く

ステイーヴ・ホッケンズミス著／日暮雅通訳

ハヤカワ・ポケット・ミステリ 1400円+税

舞台は19世紀末のアメリカ西部、主人公はシャーロック・ホームズに心酔する兄とワトソン役の弟。馬を売って鉄道保安官の職にありつき、長距離列車に乗り込んだカウボーイたちだったが、殺人事件に強盗団と、次々に危険が襲いかかってくる。テンポの良さは鉄路のリズム。ユーモアあり、謎解きあり、心温まる兄弟愛あり——つまりは全部のせ、満腹まちがいなしの冒険活劇。さあ、一緒にアルカリ土地の大平原を旅してみませんか？

アクション／冒険／鉄道／ホームズ

駒月雅子

中国が愛を知ったころ

張愛玲著／濱田麻矢訳 岩波書店 2400円+税

「匂い立つような」小説とはこれじゃないかな。中華圏で熱烈に読み継がれているアイリーン・チャンの短編集。お香とお白粉と花、酒、料理の湯気に混じる脂の匂い。甘くて苦く、官能と批評を行き来する極上の恋愛小説に、海外文学を読む楽しさが充満しています。

斎藤真理子



シカゴ育ち

スチュアート・ダイベック著／柴田元幸訳

白水Uブックス 1050円+税

シカゴには行ったこともないのに昔住んでいた気がしてくる。ただのノスタルジーじゃない。たとえば、バンド活動も小説執筆も半端なボンクラどもを描いた収録作、「荒唐地域」を読むと、いままその痛快さと風のように漂う儚さに変わらぬ衝撃を受ける。ここにあるのは正真正銘のアメリカ版「風街ろまん」だ。短篇集／ロックンロール／ポルカ
近藤隆文

緑の扉は夢の入口

ケルスティン・ギア著／遠山明子訳

東京創元社 2000円+税

海外文学をはじめ読むなら、ワクワクドキドキ夢があるお話がいろいろ。それならコレ！16歳の少女リヴは転校先のハイスクールで美形の男子四人組と出会い、しかもその四人と同じ夢を見てしまう。うれしはずかし珍事件のはじまり。さて、どうなる？ どうする？ 本書は第一の夢の書。第二、第三もあるよ。

ファンタジー／コメディ／恋愛

酒寄進一

收容所のプルースト

ジョゼフ・チャブスキ著／岩津航訳

共和国 3155円+税

「プルースト」？ なんか敷居が高そう！と思われそうだが、ここで断言。「高くない！」これは、ポーランド人将校の著者が、ソ連の收容所で同じ捕虜たちに向けて行った『失われた時を求めて』の講義録。言ってみれば門外漢の彼が、作品への愛を余すところなく語るのを聞くうちに、『失われた〜』が読みたくて堪らなくなる。まずは楽しんで、その後、講義の背景について考えてほしい。

政治／歴史

三辺律子

悪童日記

アコタ・クリストフ著／堀茂樹訳

ハヤカワepi文庫 660円+税

暴力的な世界をしたたかに生きる双子の強さと、隠れた痛み。それがものすごくシンプルな文章で語られることの衝撃。これを読んで、いいと思ったら、続編『ふたりの証拠』『第三の嘘』もぜひ。

SF／政治／歴史

柴田元幸

マローンおばさん

エリナー・ファージョン著／阿部公子・茨木啓子訳

こぐま社 1000円+税

ファージョン作／アーディソーニ挿絵という黄金の組み合わせで、ページを繰れば心から温かくなれる一冊。ファージョン作品お初の方は、この短い物語をスタートにぜひほかの本も！月曜日、貧しいマローンおばさんのもとに弱ったスズメがやってきた。火曜日は猫、水曜日はキツネの母子、木曜日はロバ、金曜日は熊。わずかな食べものをみんなに分けたおばさんを待っていたのは？

動物／ファンタジー／博愛

島村浩子

マンゴー通り、ときどきさよなら

サンドラ・シスネロス著／くぼたのぞみ訳

白水Uブックス 1300円+税

おかれた環境も背景もまったくくちがうはずなのに、不思議ななつかしきで胸がいっぱいになります。読みおわったとき、その人なりの「マンゴー通り」を思い出し、その人なりの「ときどきさよなら」が甦ってくるかもしれません。ここではないどこか／異郷／幼い日々

芹澤恵

死をポケットに入れて

チャールズ・ブコウスキー著／中川五郎訳

河出文庫 680円+税

文学と酒と女と競馬に明け暮れたアウトロー爺さん、ブコウスキーが晩年に綴った痛快エッセイの集大成を、文学と酒と音楽に明け暮れ中のアウトローおじさんが訳した珠玉の一冊。読み終えると、なんだか相当いい加減なことをしても生きて行けるような、妙なポジティブさが湧いている。適当に開いたところから少しずつ読める楽しさもいい。日記／中二病／アウトロー
田内志文

失われた時を求めて〈3〉

プルースト著／高遠弘美訳

光文社古典新訳文庫 1295円+税

語り手の「私」はスワンとオデットの娘シルベルトへの恋心を募らせ、スワン家に入り出すようになる。一方、「私」は藝術に対する知識と理解を深めてゆく。ブックガイドではチャブスキのプルースト論をいち早く紹介し、プルーストを読むことの意義について語っている。

高遠弘美

グリーン・マイル（上・下）

ステイーヴン・キング著／白石朗訳

小学館文庫 上巻810円・下巻830円+税

双子の少女の遺体を抱えておおいおおい泣いていた黒人の大男、ジョン・コーフィ。彼は強姦殺人の罪で死刑を宣告され、刑務所に収監される。しかし性格はいたって穏やかで、残忍な犯罪者には見えなかった。彼は何者なのか？1930年代のアメリカ南部を舞台にした切ないファンタジー。泣けます。ファンタジー／ホラー
高橋知子

その雪と血を

ジョー・ネスボ著／鈴木恵訳

ハヤカワ・ミステリ 1400円+税

ノルウェー産のノワールです。ノワールなんて暗い話で、主人公も殺し屋なんですが、この殺し屋の純情と無垢が雪のようにまぶしく、せつないお話です。出だしからせつなく、そのせつなさはラストで最高潮に達します。そして、多くの読者が起こるはずのない奇跡の起こることを祈るはず。読者をそんな思いにさせる傑作です。

田口俊樹

デーミアン

ヘルマン・ヘッセ著／酒寄進一訳

光文社古典新訳文庫 720円+税

わたし自身の初めての本格的な海外文学、我が青春の愛読書です。裏表紙に「少年の魂の遍歴と成長を見事に描いた傑作」とありますが、当時少女だったわたしにも大きな影響を及ぼし、この本のおかげで世界を違った目で見ることができるようになりました。

遠山明子

雪のひとひら

ポール・ギャリコ著／矢川澄子訳 新潮文庫 460円+税

「わたしはなんのためにうまれてきたのでしょうか」。空から舞い落ちた「雪のひとひら」さんの旅がはじまります。雪だるまになったり、「あめのしずく」と恋をしたり…小さな存在が語る壮大な物語。

童話／詩／人生

永田千奈



翻訳者68人が選んだ!!

はじめての大人向け 海外文学② vol.1



お前らの墓につばを吐いてやる

ボリス・ヴィアン著 / 鈴木創士訳 河出文庫 920円+税
半世紀も前のこと、伊東守男さんが訳された『墓に唾をかける』を愛読していた。その作品が鈴木創士さんの新しい訳で甦った。偽の作者がでっち上げられ、露骨な暴力と性の描写で告発され、発禁処分にもなったこの作品に漂う背徳の香りは半世紀後の今も強烈なまま。そして世界はこの作品が立ち向かった偏見や差別にいまに満ち溢れたまま。
ロマン・ノワール(フランス暗黒小説)
中川五郎

キーパー

マル・ビート著 / 池央耿訳 評論社 1500円+税
南米の貧しい少年がジャングルの奥地でサッカーの師と出会い、やがてワールドカップの決勝を戦うキーパーになる……。成長物語で、社会派ドラマで、ファンタジーでもあって、サッカーファンじゃなくても楽しめる奥深いおもしろさに満ちています。ラストのシンプルな感動は、まさに最高にしびれる試合を見たときのように!
サッカー/ファンタジー/ YA
中村久里子

最後に鴉がやってくる

イタロ・カルヴィーノ著 / 関口英子訳 国書刊行会 2400円+税
カルヴィーノはむしろん大家だが、まるで 21 世紀になって書きはじめた新人作家の短篇集のように新鮮で、刺激に満ちている。モチーフは多岐にわたる。貧しい農夫のうちなる不条理、「荒地の男」の禅の公案のような会話、「ドルと年増の娼婦たち」の酒場にかけつける娼婦たちの描写の豪勢さ、「海に機雷を仕掛けたのは誰?」の祝祭的情景——機雷が爆発した後に水面に浮かぶ魚に歓声をあげて群がる人々、貧民、子供、修道女、老人、スカートの女たち。小説の祝祭。
イタリア文学/現代文学
西崎憲

ライ麦畑でつかまえて

J.D.サリンジャー著 / 野崎孝訳 白水Uブックス 879円+税
言わずと知れたベストセラーです。でも、有名でよく売れた割には「万人受けしない」という印象があります。大好きで数多くの人に勧めてきましたが、必ず良い反応が返ってくるわけではない。誰もが手放して絶賛するわけではないが、読むと、自分が深いところでどういふ人間なのかよくわかる、そういう本なのかもしれません。
冒険
夏目大

パイド・パイパー 自由への越境

ネビル・シュート著 / 池央耿訳 東京創元社 700円+税
ナチス・ドイツが侵攻を開始したときフランスに滞在していたイギリス人の老弁護士は、ひょんなことから子どもたちを預かってドイツ軍の手を逃れ、故国をめざす困難な旅に出る……。勇気とユーモアと抵抗精神に満ちたこの心優しいロングセラーの冒険譚を、もっと多くの方々に面白さは保証付き、そしていまの時代、シフリと心に沁みます。
冒険/歴史
野口百合子

ロボット・イン・ザ・ガーデン

デボラ・インストール著 / 松原葉子訳 小学館文庫 850円+税
表紙のイラストそのまま、ほっこりできるキュートな小説です。なんとといっても、メインキャラクターとなるロボットがかわいい!
ロボット/ロードノベル/ファンタジー
東野さやか

ヒトラーと暮らした少年

ジョン・ポイン著 / 原田勝訳 あすなろ書房 1500円+税
「いじめられるより、いっそ、いじめる側になっちゃったほうが『まし』なんじゃないか……」ヒトラーの山荘で暮らすことになった少年は、しだいに独裁者に心酔していきます。人は弱い者に寄り添い、正しいことをし続けるより、強い者を賞美し、その力を借りたほうが楽なのです。でも、それでいいんだろうか? 今、私たち日本人こそ読むべき物語!
YAだけど大人にも! / 心理/歴史
原田勝

バイバイ、わたしの9さい!

ヴァレリー・ゼナッティ著 / ささめや ゆき絵 / 伏見操訳 文研出版 1200円+税
訳すために、何度読みなおしても、最後のところで泣いてしまいます。でも、悲しい涙ではなく、すがすがしい涙。そして、「世界っていいなあ」と思うのです。大好きな本です。
少女/自立/社会問題/冒険
伏見操

蜜蜂

マヤ・ルンデ著 / 池田真紀子訳 NHK出版 2000円+税
蜜蜂がつかなく、過去、現代、未来の三つの家族の物語。謎また謎のストーリーに、一気に引き込まれます。心を通わせあえない夫婦、親子のリアルな関係に胸を刺されつつ、やがて「ああ、そこが!」という驚きの結末へ……。苦難続きの人生でも、思いがけない方向から光が射すこともある。そんなことに気づかせてくれる一冊です。
一般小説/歴史
布施由紀子



フローラ

エミリー・バー著 / 三辺律子訳 小学館 1500円+税
人名や地名が覚えられないから海外文学は苦手? 本書の主人公フローラも同じ気持ちかも。記憶障害のため、自分の年齢(17歳)すら覚えておけない彼女が、大胆にもたったひとりて北極の島へ。そこで見いだす真実とは? 数ページ前の出来事も忘れてしまう主人公の語りは不安と謎に満ちて、読者は心を揺さぶられつつ、応援せずにいられない!
自立/記憶障害/北極
古市真由美

モンスターズ 現代アメリカ傑作短篇集

B・J・ホラズ編 / 古屋美登里訳 白水社 2400円+税
「モンスター」が登場する作品を集めた刺激的なアンソロジー。無名作家から有名作家まで、腕によりをかけて創り出したモンスターの数々。アメリカで生きる人々の「寂しさ」の本質が垣間見える。でもそれはここにいる私とも繋がっている。
文学/ファンタジー/ミステリー
古屋美登里

プラテロとわたし

J. R. ヒメネス著 / 伊藤武好・伊藤百合子訳 理論社 1600円+税
詩人ヒメネスのまなざしはいつも優しく、ろばのプラテロへの愛情であふれている。黄昏時のような寂しさが全編を貫いているのに温かい。子どものころにかいた土の匂いがしてくる。百年前の詩人のみずみずしい言葉。仕事に疲れたら手に取って。心がほんわりするから。長瀬太の描くプラテロが、可憐で、頑固で、健気。
散文/スペイン/ロバ/田舎/紀行
前沢明枝

偽りの銃弾

ハーラン・コーベン著 / 田口俊樹・大谷瑠璃子訳 小学館文庫 930円+税
大好きなコーベンの新作イチオシで。元陸軍大尉パイロットのマヤは戦場のフラッシュバックに悩まされながら夫の殺人事件にからむ真実を追い、予想外の秘密に次々と出くわすことに——現代アメリカを描いたミステリです。背景はハードですが展開が早くて読みやすく、なによりタフなマヤがかっこよく、そしてラストにはしばらく言葉をなくしてしまう。彼女の真実をみなさんはどう思われますか。
ミステリー
三角和代

毒見師イレーナ

マリア・V・スナイダー著／渡辺由佳里訳

ハーバー・コリンズ・ジャパン 907円+税

やむなく殺人を犯して死刑囚となった少女イレーナは、生き延びるために最高司令官の毒見役となるのだが——。壮絶な試練に必死に立ち向かう少女の一途さに、胸がぎゅっと痛くなるダークファンタジー。クールな防衛長官ヴァレクがまたすてきなのです。シリーズ最終巻がまもなく刊行です。こちららぜひ!
ダークファンタジー／格闘／冒険
宮崎真紀

お静かに、父が昼寝しております

ユダヤの民話／母袋夏生編・訳

岩波少年文庫 720円+税

高額で宝石を譲ってくれと言われて断ったが、じつは宝石箱の鍵が昼寝をしている父親の枕の下にあったから——という表題作はユダヤ教のタルムードの話。世界各地の伝承と混じった民話や笑い話、天地創造や樂園喪失など創世記の再話ほか、少年文庫の体裁ながら、大人が読んでもグッとくるユダヤ民話集です。
ユダヤ／民話／短篇
母袋夏生

4歳の僕はこうしてアウシュビッツから生還した

マイケル・ボーンスタイン&

デビー・ボーンスタイン・ホルンスタート著／森内薫訳

NHK出版 1800円+税

ドイツ占領下のポーランドに生まれたマイケルは、わずか4歳でアウシュビッツ強制収容所に送られたが、からくも半年後に生還できた。その理由は何だったのか? 事実即した物語ではあるものの、登場人物の会話や心情などはフィクションで、文学とも言える。家族の絆や、希望を持ち続けることの大切さを教えてくれる作品だ。
歴史／戦争／ナチス
吉澤康子



あなたに似た人 I

ロアルド・ダール著／田口俊樹訳

ハヤカワ・ミステリ文庫 760円+税

ダールはもちろん、『チョコレート工場の秘密』(映画『チャーリーとチョコレート工場』原作)の作者ですが、短編作家として有名で、代表作がこれ。半世紀ぶりに新訳が、2分冊で出ました。(旧訳者は、詩人の田村隆一)。まずは、そうですね「南から来た男」を読んでください。最後の落ち、本当にびっくりします。
宮下志朗

豚の死なない日

ロバート・ニュートン・ベック著／金原瑞人訳

白水Uブックス 900円+税

12歳の少年の一年間を描いた物語。豚を殺すことを生業とする父親は、貧しく無学だが厚い信仰心を持ち、大地の掟とともに誠実に生きている。その父が余命いくばくもないとわかり、少年はひと冬で大人になることを余儀なくされる。読み終えたとき、タイトルの意味が深く胸に沁み、少年のけなげさと人生のきびしさに、涙せずにはいられない。
ヤングアダルト／成長小説
向井和美

服従

ミシェル・ウエルベック著／大塚桃訳

河出文庫 920円+税

2022年、フランスでイスラム政党が政権の座に就くという架空の設定で世界をざわつかせた近未来小説。シャルリ・エプト襲撃テロの日に発売になったというタイミングもスキャンダラス。でも、実際は時代遅れな文学青年のダメ男小説であるところが、別の意味でスキャンダラス。近未来小説／イスラム対極右／文学青年のいじましき
柳原孝敦

虫とけものと家族たち

ジェラルド・ダレル著／池澤夏樹訳

中公文庫 1000円+税

底抜けに大らかなギリシアの島で暮らした、肝っ玉母さん率いる強烈な英国人一家の実話?小説です。著者はその未っ子。ユニークすぎる家族(有名作家含む)の行状をバラしたかどで全員に責められて大変だったとか。ツンデレなギリシア愛のじむ池澤夏樹訳がとにかく絶妙で、読む太陽のような一冊。
ギリシア多島海／動物／大戦前
和爾桃子

でんすけぬりえ 好きな色でぬってみよう!



はじめての海外文学フェア vol.4

「はじめての海外文学」フェアは、日本じゅうの書店店舗が協力し、お薦めの海外作品をいっせいに売っていく壮大な試みです。2018年も11月から第4回フェアが各書店で展開されます。今回も大人向け、子供向けの両部門で開催され、選書メンバーの翻訳者は、合わせて68名。どうぞ素敵な本との出会いがありますように。

